

1. 全体まとめ

大野市ゼロカーボンシティ2050ワークショップまとめ

土台となるもの（大野市の地域資源・宝物・可能性）

市民の姿

結の心・精神
相互扶助
人のやさしさ
人と人のつながり
人柄、人情
協力しあえる関係、連帯
顔見知りのコミュニティ
やろうと思えば何でもできる
地区民の連携

- * 豊かな自然（水、地下水、湧水、水源、川、森、雪、山、空、夜空、星、空気、四季、景色 etc.）
- * 貴重な生態系（イトコ、希少生物、動物がたくさん、生物多様性 etc.）
- * 広い土地（農地、山林、市街地、集落、空地・未利用地 etc.）
- * 特徴ある地形（強風をさえぎる盆地、コンパクトなまとまり、市街地と田園・山林・ダム etc.）
- * 美味しい食べ物（米、野菜、有機野菜、山菜、そば、豆腐、伝統食 etc.）
- * エネルギーに依存しない生活（例：冷房を使わない）
- * 豊かな余暇時間（静か、美しい星空、真っ暗な夜、自然の中で休息、アウトドアスポーツ etc.）
- * 学びつ環境（自然の知恵、主体性を伸ばす教育、生涯学習 etc.）
- * 歴史・文化・伝統（天空の大野城、城下町、歴史的な町並み、小京都、報恩講 etc.）
- * 多彩な観光資源（朝市、城下町、歴史文化資源、自然資源、食文化、歩けるまち etc.）
- * 豊富な未利用資源（木質系、稲わら、里芋の頭、未利用農地、空家、水、雪 etc.）
- * 期待される交通体系（越美北線、中部縦貫自動車道 etc.）
- * 進んだ防災体制（融雪装置、除雪体制、豪雪対応 etc.）



解決したい地域課題

- 少子高齢化・人口減少対策（子ども・若者人口、Uターン、移住・定住、交流人口、空家対策、限界集落対策 etc.）
- 自然・農地・山林・未利用地の保全、活用（地下水保全、川の生き物復活、河川美化、希少生物保護、獣害対策、農林業後継者 etc.）
- エネルギー収支赤字の解消（エネルギーの地産地消、自然・再生可能エネルギーの推進、未利用資源の有効活用、広く寒い家 etc.）
- 生活利便性・安全性・安心性の向上（教育、商業、医療、地域福祉、交通、防災・減災、情報化 etc.）
- 産業・雇用の創出（就労の場、独自産業、農林業従事者、若者雇用、儲かる農林業、観光 etc.）
- 脱炭素の取り組み活発化（小中高校での地球温暖化教育、市民のエコライフ行動変容・教育 etc.）



2050のライフスタイル（めざすゼロカーボンシティのイメージ）

① 住む	自家発電 エネルギー自給	ZEH エコハウス	シェアハウス 冬季、通年	薪ストーブで あたたかい家	屋根雪が 自然に落下	コンパクト シティ	雪・氷の利用
	ソーラーLED ソーラー防犯灯	夏涼しい 風の通る家	効率的な 除雪体制	ごみ焼却熱 の利用	親子共同 地域団地化	雑木林・里山 の暮らし	オール電化
	家屋縮小	省エネ家電	空家活用	温かい家	集合住宅	空調省エネ ノンフロン化	地下水 ヒートポンプ
	家並みが そろそろ	子だくさん ・見守り	結の精神	若者が住みた くなる家	集落の団結 力、助け合い	エコな融雪 システム	小水力利用 風力利用
	集中して住む	空家で企業のリ モトワーク	雪の地下貯蔵 で集中冷房	古民家改修 のWS開催	自然を身近に 感じる住まい	40年前の 生活回帰	エアコンレス
	廃校で就労 者アパート	小水力でゼロエ ネルギー住宅	生活の便利な中心市街地 に高齢者の集合住宅		県外移住者のための空家 活用エコリフォーム		ソーラー発電 と蓄電池
	除雪を必要と しない融雪装置	夏、エアコンなしで生活 できる涼しい家		パネルロード (海外の例)	一家に一台エコ なストーブ	空校舎を高 齢者施設に	再エネだけの シェアハウス
② 働く	農林業従事 者の維持	スマート農業	IT企業	若者が 働ける	リモートワーク 環境の対応	ケビンでワー ケーション	サテライト オフィス
	副業で安定	自然の付加 価値活用	未利用農地 の活用	省エネ再エネ の雇用	楽しい農業	農地集約化 大規模化	独自産業

②働く	週に1日まちの活動 (教える、農業、掃除等)		農業公社(半市営)で 大野の特産物		DX化	林野庁が林道を整備し、 林業従事者を増やす	
	空家を回収し、若年就労者 に安価で賃貸		中山間地で使える安価な スマート農機		電気自動トラク ター、コンバイン	田舎でできる仕事場所にし ばられない働き方	
	森林を活用し た職場	儲かる工コ 産業の創設	非正規雇用 を減らす	農作業を 共同で行う	ソーラーエネ ルギー利用	農業の ドローン化	農林作業 ワーク拡大
③移動する	EV車	カーシェア	エコカー	ドローンで 配達	自動運転車	デマンド交通	自転車道・ 歩行者優先
	越美北線で自転車持ち 込みOK		観光用自動 運転EV	自動運転EV のシェアリング	スクールバスと 市内バス兼用	公共交通の エコ化	自然の中で サイクリング
	オンデマンド バス	通学生徒の希 望電車時刻	地域が家族 声かけ乗り合いタクシー		サイクル自転 車シェア	サイクル トレイン	EV車で共同 通勤
④捨てる・再生する	ゴミ分別 再資源化	生ごみ堆肥 化	食品ロスが ない	プラゴミ削減 プラゴミゼロ	人にあげて 有効活用	ごみのエネ ルギー化	家庭ごみの 有料化
	半公営リサイ クル会社	バイオマス発電 (生ごみ、残さ、糞尿)		雪を利用した 発電システム	雪を氷室に (観光資源)	地下水の熱利用 クローズドループ	
	ペーパーレス	食べ残しゼロ	環境美化	ミズ コンポスト	何でも捨てず に再利用	買わせるコマ ーシャルをやめる	人にあげて 有効活用
⑤作る・育てる	家庭菜園 クラインガルテン	無添加・無農 薬・減農薬	地下水利用 の農作物	夏冬通年 農業体系	花と香りの まちづくり	付加価値の 高い加工品	地産地消 自給自足
	CO2吸収植 物を植える	農地を貸して自 給自足拡大	荒廃、不耕作地の 公園化・緑化		規格外里芋 頭で発電	シーブルーパ ネル利用温室	1坪農地 全国募集
	畑マイスターが市街地の人に 畑を貸して教えてくれる		ブランド米の 研究開発	自家菜園で 道端販売	植林拡大	市場に出せない野菜で 加工品づくり	
	皆で作 り、皆で 食べる	やぎを飼 う	未利用農地 の集約化	森林再生	自宅近くの空 き地で菜園	生ごみ堆肥→有機野菜 →学校給食	
⑥休む・遊ぶ	木を使った子 どものおもちゃ	自然の中 でのびのび遊ぶ	山の魅力 を生かす	登山・キャン プ・森林浴	屋外コンサ ートアウト イベント	森のハンモ ックカ フェ	ヘルスウェ ルネスツ ーリズム
	農泊体験 ツアー	ダム湖の 利活用	伝説づくり 奇祭づくり	ツチノコ探 しダム湖 ネッシー	親から子へ 昔を教 える	キャンプ場 スキー場	サイクリ ング・専 用道路
	観光農園	都市部で働 き休日は地 元で	自然活用の 遊び場整備	自然あふ れる広い 公園	星空ブラン ドの確立	太陽熱利用 のあったか らんど2	木の遊 具
	歩こう会、自然観察会、星空を 見る会(全国から募集)		森林を利用した観光施設 (自然エネルギー利用)		祭り参加 ツアー企画	山・川・森で つくるア ドベンチャー ランド	
⑦食べる・使う	生ごみ堆肥 で有機野菜	地産地消 ポイント	CO2削減 ポイント	グリーン消費	フードマイ レージ対 策	地元のも ので安心 手づくり	特産品 で映える デザート
	からだによ い昔のメ ニュー	ひねれば 美味しい 水が飲め る	若者向け の特産品	エコポ イントを お金に換 える	野菜く ずの料理 教室	結のさと 商店でエ シカルな オリジナル 商品	
	そば・餅・芋 ・田舎料理	自給自足 & 家族み んなで食 べる		空気が きれい で洗濯が 気持ち いい!		生ごみ堆 肥→有機 野菜→学 校給食	
⑧学ぶ	山の学校 山村留学	自然学校 自然を学 ぶ	地域や昔 から誇 りを育 てる	子ども の特 性、主 体性	オンラ インリ モート	DX、他 県と WEB授 業	学校分 散化
	エコス クール エコツ アー	地域の 魅力自 分で探 す授業	生涯学 習フレ イル予 防	部活で スキー 選手育 成	何歳 でも誰 もが チャレ ンジ	デジ タル 化AI の活 用	少人 数の スキ ンシ ップ 教育
	野鳥、 イトヨ 、アラ レガコ など天 然危 惧種 の研 究、学 部づ くり	エコ産 業を学 ぶ大 学		脱炭 素教 育人 材育 成	星 空観 察林 間学 校	大野 の自 然を 生か した 大人 の修 学旅 行	
⑨その他	集落の 団結互 助	治水 利水+ 環境 重視	交流 人口 の拡 大	小水 力発 電を 地域 利用	森林 や耕 作放 棄地 公的 所有	災害 時の 情報 網	健康 なから だ友 達・子 ども 達
	市民発 電所 太陽 光発 電	水素 等安 全性 の高 い再 エネ	化学 物質 の影 響の ない 自然	太陽 光発 電の 融通 (昼間 使用 が少 ない 家庭 電力 を公 共設 施へ)		医療 にす ぐか か れる	薪キ ュー ト
	小水力 事業 の利 益が 地元 に落 ちる よう に		灯油 ボイ ラー を電 気(再 エネ) 等に 切り 替え る		大雪 が降 らな い地 域は 太陽 光の 保障 を		学校 のエ ネル ギー は太 陽光

2. 全体考察

1) 住む

大野市の住まいの特徴として、夏涼しい家、歴史的な町並み、趣ある古民家等の特徴がある一方で、除雪の負担、特に屋根雪降ろし、冬場の寒さ、ヒートショック、一人暮らし高齢者や空き家の増加など様々な問題が考えられます。

2050 ゼロカーボンシティの目標としては、除雪の負担や危険を減らすしくみ、断熱性が高く、地域資源を生かせる薪ストーブなど再生可能エネルギーの利用、熱効率のよいコンパクトな家、歴史的な町並みや家並みに調和したエコハウス、一方で、見守り、助け合い、安心して暮らせる集合形態の家、シェアハウス等が期待されます。さらに、移住・定住を促進するため、市内外の若者や子育て世代が積極的に暮らせる魅力的で省エネ再エネを備えた家も期待されます。

2) 働く

大野市の就労に関わる特徴として、就労人口の市外流出、農林業後継者の減少、就労の場の少なさによる若者の定住人口の減少等が問題と考えられます。

2050 ゼロカーボンシティの目標としては、スマート農業など魅力的な農業環境、林野庁等の林道整備による効率的な林業環境を充実し、脱炭素に貢献する重要な基幹産業としての価値を高めるとともに、コロナ禍において社会に浸透したリモートワーク、ワーケーション等を大野市の豊かな自然環境の中で実現する「職住一体型のライフスタイル」として確立していくことが期待されます。これら産業のあり方や就労のあり方は、DX化の進展に伴い、一層社会環境の整備が進むことが期待されます。

3) 移動する

大野市の交通環境の特徴として、決定的な車社会による温室効果ガスの排出、交通弱者、特に免許返上後の高齢者の移動の問題等が深刻化していると考えられます。

2050 ゼロカーボンシティの目標としては、再エネを活用したEV車の普及とともに、カーシェアリングによる温室効果ガス排出の削減、一方で、コミュニティレベルの送迎サービスや乗り合い活動、オンデマンド交通など地域の規模に合った効率的なしくみによる魅力的な移動のしくみを生み出していくことが期待されます。さらに、越美北線については、脱炭素社会の重要な公共交通として、また観光面での可能性も含め、沿線自治体や沿線住民と力を合わせて有効活用し、守っていくことが期待されます。

4) 捨てる・再生する

大野市においても、生ごみ、食品ロス、プラスチックゴミ等をはじめとする様々な廃棄物問題があります。また、冬場の雪、農林業で排出される未利用資源の有効活用も課題と考えられます。

2050 ゼロカーボンシティの目標としては、大野市の環境を生かし、生ごみ堆肥化による有機農産物の生産、学校給食での活用、生ごみ回収と堆肥化における雇用の創出などが期待されます。また、籾殻、稲藁、里芋の規格外頭など様々な未利用資源を生かしたバイオマス利用の推進も期待されます。さらに、雪の利用として氷室での食料や地酒の保存等の取り組みは観光面での魅力も期待できます。

5) 作る・育てる

大野市の土地や景観に関する特徴としては、未利用農地、耕作放棄地、空き家、空き地の問題が増加しています。一方、かつての里山に根差した生活様式は、薪炭から化石燃料へと変化したエネルギー革命によって変容しました。

2050 ゼロカーボンシティの目標としては、地産地消によるフードマイルージ対策として、農家の畑マイスター制度を創設し、畑を持たない市街地居住の市民に未利用農地を貸して畑づくりを教えることで家庭菜園を普及させるとともに、まとまった農地はクラインガルテンとして整備し、皆で作り、皆で食べるコミュニティ空間にすることも期待されます。一方、空き家、空き地には植林を進め、まちなか緑化を推進するなど、脱炭素と景観整備が両立するしくみが期待されます。里山の生活様式については、薪炭など自然を生かしたエネルギー利用の価値を再認識し、雑木林を育て生かす活動が期待されます。一家に一台、薪ストーブ設置という提案はその一つと考えられます。

6) 休む・遊ぶ

大野市では、豊かな自然環境のもと、美味しい水、食、河川、山々、森林、雑木林、里山、空気、星空、景観、四季、生物多様性など、かけがえのない様々な財産を有しています。

2050 ゼロカーボンシティの目標としては、これらを最大限生かして、市民や滞在者、訪問者の生活の質・人生の質（QOL）を高めることが期待されます。ワーケーションはもちろんのこと、コロナ禍でも安心して過ごすことのできる、ゆったりとした環境下で疲れを癒やし、家族や仲間と、また一人でリラックスして過ごせる場となることが期待されます。スキー、登山、キャンプ、釣り、その他、様々なアウトドアも魅力です。環境に負荷をかけずに休み、遊べる環境は、脱炭素社会を支える重要なライフスタイルの一場面を担う空間として期待されます。

7) 食べる・使う

大野市は、既に述べたように恵まれた自然環境のもと、美味しい食や豊かな地域資源に恵まれており、食の自給自足、エネルギーの自給自足の可能性が高いまちです。

2050 ゼロカーボンシティの目標としては、昔からの知恵や伝統にもとづく郷土料理、せせらぎにまわる芋洗い水車など風情ある味わいや光景がいつまでも続くまちを市民の手で守り続けていくことが期待されます。また、上述した通り、地産地消や資源循環、未利用資源の有効活用等の可能性を最大限に生かした持続可能な消費のあり方が期待されます。

8) 学ぶ

大野市の豊かな環境は、自然、地域資源、地域社会等から学び、主体的、自立的な生き方の土台を築くための教育の可能性を有すると考えられます。特に、食やエネルギーの地産地消、自給自足においては、こうした豊かな環境下で学ぶことのできる知恵や技術が不可欠です。

2050 ゼロカーボンシティの目標としては、自然学校、山の学校、山村留学、ファームステイ、自然エネルギー学校等の体験学習を通して、知恵や技術を学ぶとともに、地域で自立的に生きる実践力をつけることが期待されます。地元子ども達が日常の豊かさを通して学ぶことはもちろん、コロナ禍で密な環境が敬遠され、地元重視の傾向が高まる小中高の修学旅行、また、大人の修学旅行の提案からも、本市でなければ体験、経験できない魅力的な特性を生かした多様な学びの場が大きく期待されます。

3. 脱炭素×地域課題（例）

大野市の地域資源×解決課題×脱炭素 = 2050の未来像（例）

2022		2022		→→→→		2050
大野市の宝 地域資源	×	解決したい 地域課題	×	脱炭素の 取り組み	=	実現したい 幸せな未来像
豊富な森林	×	林業従事者確保	×	CO2吸収源の拡大 エネルギー自給	=	エネルギー自給& CO2吸収&雇用
広い未利用農地	×	未利用地の 有効活用	×	フードマイレージ の解決	=	豊かな田園景観と 自給自足
広い農地と農業	×	生ごみ処理軽減と CO2抑制	×	生ごみ処理で発生 するCO2削減	=	堆肥化で資源循環 の有機農業
豊かな清流	×	エネルギー収支 の赤字解消	×	小水力発電で エネルギー自給	=	エネルギーの 自給自足
人と人のつながり	×	一人暮らし高齢者 の安全安心	×	住宅にかかる エネルギー節約	=	シェアハウス 集住で安心&省エネ
伝統的な町並み	×	中心市街地の 空洞化対策	×	住宅にかかる エネルギー節約	=	中心市街地の景観 調和型エコハウス群
豊かな自然	×	子ども達の豊かな 学び&遊ぶ環境	×	自然の力・知恵・ 技術の学習	=	エコスクール・自然 学校・山村留学
広い市域	×	交通弱者の 利便性確保	×	移動にかかる エネルギー節約	=	オンデマンド& カーシェアで移動
広い市域	×	少子化に対応 した学びの環境	×	学校施設にかかる エネルギー節約	=	学校再編で省エネ エコスクール
豊かな環境 美味しい食べ物	×	仕事&余暇の両立	×	田舎&仕事の両立 通勤の省エネ	=	ワーケーション でリフレッシュ
豊かな環境 美味しい食べ物	×	仕事&暮らしの両立	×	職住一体で 通勤の省エネ	=	移住定住人口 の増加
雪の恵み	×	除雪、雪下ろしの 負担&危険回避	×	エコハウスで 雪害予防	=	安全安心な 雪国の家